

## 「アビラの聖テレサからのメッセージ」

片山はるひ ndv.



1) 「福音の喜びは、イエスに出会う人々の心と生活全体を満たします。

イエスの差し出す救いを受け入れる者は、罪と悲しみ、内面的な空しさと孤独から解放されるのです。喜びは常にイエス・キリストとともに生み出され、新たにされます。私は、この喜びを特徴とする福音宣教の新しい旅の段階へとキリスト者を招きます。」

(教皇フランシスコ『使徒的勧告 福音の喜び』)

2) アビラの聖テレサ：霊的な人々の母 (Mater spiritualium)

1515年 3月28日 スペイン、アビラに生まれる。 1535年 御託身修道会入会。  
1556年 決定的回心。 1582年 聖ヨゼフ修道院の創立を始めとして、17の跣足女子カルメル会を創立する。1582年 アルバ・デ・トルメスで死去。1622年 列聖。 1970年教会博士となる。

3) テレサ的精神 祈りと活動の一致

「この世はまるで火事のようなではありませんか！」(『完徳の道』1章5)

「わたしたちは、多くのことを複雑にしてしまうのと同じように、祈りも複雑にしてしまいます。しかし、祈りとは、分かっことのできない愛—それは、あなたへの愛、わたしへの愛、そしてすべての人への愛—を注がれるキリストを愛することなのです。そして、たがいに切り離すことのできないこれらの愛は、イエスの言われた「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたもたがいに愛し合いなさい」ということばにならうとき、実践へ移ってゆくのです。」

(マザー・テレサ『祈り』サン・パウロ p.57)

4) アビラの聖テレサの教え (教会博士)

① 神の現存 「神はわたしのうちにおられる」(『自叙伝』10章1)

「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む」(ヨハネ 14:23)

② 念禱 (沈黙の祈り)

「祈りとは、自分が神から愛されていることを知りつつ、その神と二人だけで、たびたび語り合う親しい友としての交わりにほかなりません。」(『自叙伝』8章5)

- ・ 祈りの難しさ、「散心」と「無味乾燥」、水やりの4つの方法→祈りの4段階 (自叙伝 11章)
- ・ 祈りの道。

何事もあなたを乱すことなく

何事も恐れてはならない

すべては過ぎ去る。

神のみ変わらない

忍耐は全てを勝ち得る。

神を所有する者には

何も乏しいことがない。

神のみで足りる。